

トピックスいわて

「日本一の産地を目指そう」 知事がプロイラー産地を訪問



増田知事とプロイラー生産関係者との懇談会が、二月一日、プロイラー産地の二戸市で行われた。知事は、市内の吉田農場を訪れ生産者を激励した後、衛生的に管理されたプロイラー工場、肉の処理・加工工程を視察した。その後関係者十数人と懇談し「本県はプロイラー生産に適しており、全国でも第三位と本県農業の主力である。生産も伸びており、生産者と関係者が協力して日本一を目指そう。」と参加者一同で飛躍を期した。

県の総合計画をテーマに 増田知事が県立大学で特別講義



増田知事は二月二日、滝沢村の県立大学で、県の総合計画をテーマに特別講義を行った。総合政策学部の一、二年生約二百人が出席、県行政の最高責任者の知事から直接話を聞き、授業に生かす機会となった。知事は「総合計画は県士発展のための経営戦略。延べ二万五千人からアンケートを取り『環境』『ひと』『情報』の三視点から指標を立てた。行政には説明責任、結果責任が求められる」と約一時間にわたって講義した。

水産加工業の活性化を考える 県内若手業者が知事と語る会



増田知事と若手水産加工業者との本県水産加工業について語る会が、二月四日、盛岡市で開かれた。県青年水産加工協議会の久慈、宮古、釜石・大槌、大船渡の四地区の研究会メンバー十七人が出席。知事は「秋サケなどの不漁で加工に大きな打撃が出ているなど水産業の置かれている現実は待ったなし。より現実的な対応をともに考えていきたい」と述べ、産地の競争力を高めていく必要性などを話し合った。

県独自の酒造米「吟ぎんが」 試飲会でさわやかさが好評



初の県オリジナルの酒造好適米「吟ぎんが」を使った日本酒が出来上がり、二月十日、盛岡市内で開かれた「試飲求評会」で披露された。蔵元や酒類販売関係者や酒米生産者が、出来上がったばかりの大吟醸酒を味わいながら感想を語りあった。県独自のコメと酵母、南部杜氏の技術でつくった酒はさわやかな味と高い香り特徴。また、二月十四日には、東京・銀座でも発表会を開き、首都圏への売り込みも図った。

国際協力のこれからを考える 盛岡で地球市民フォーラム



県、国際協力事業団（JICA）などが主催し「見つめよう 踏み出そう 新しい世界へ」をテーマにした「いわて地球市民フォーラム2000」の全体会議が、二月十八日に県民会館で開かれ約六百五十人が参加した。藤田公郎JICA総裁の講演「新世紀に向けて―市民参加による国際協力」や「異文化に学ぶ」と題する青年海外協力隊員の帰国報告会などを通し、今後の日本、岩手における国際協力の在り方を考えた。

岩手山の噴火を想定して 三千二百人が参加し防災訓練



岩手山の水蒸気爆発で、雫石町に土石流の被害が起きたことを想定した冬季防災訓練が、二月二十日、同町の西山公民館を主会場に開かれた。県・周辺六市町村の関係者や雫石町民など三千二百人が参加、本番さながらの緊張した訓練を繰り広げた。視察した増田知事は「常に条件の悪い状況を考え、日々の防災意識を持つことが必要だ」と呼びかけ、防災関係者は「気を緩めることなく日ごろから備えを」と気を引き締めていた。